

ご 挨拶

海蔵小学校百周年記念事業推進委員会

会 長 山 本 貞 三

わが国の近代教育制度は明治5年8月の学制頒布から始まります。海蔵の先達諸氏は、いち早く勇気と英断をもって明治維新の新時代の扉を開くために、明治8年7月1日、末永に海蔵学校を発足させました。

以来、制度、組織の改革により、校名や場所の変更などあって明治32年、現在地（東阿倉川）に海蔵尋常小学校として根をおろし今日に至りました。

その間、幾多の試練と変遷を経て、苦難のうちにも村民はよく“新しい教育”をモットーに発展につくして参りました。その沿革の中には、天災、地変、戦争、とりわけ昭和20年の大空襲と終戦に際しては、かつてない悲痛のどん底に落され、いまもなお記憶に新しいところです。しかし、先輩の卓越した教育理念のもとに復興と共に躍進に躍進を重ねて参りました。

本年7月1日、めでたく創立百周年を迎えることになりましたことは、海蔵地区の歴史の上からも誠にご同慶の至りにたえません。

この百年一遇のよき年を迎えるにあたり、記念事業推進委員会を昨秋結成いたし、社会情勢の変転する時世にこたえ得る教育環境改善の一助にと、鋭意、意義ある記念事業を計画致しました。ここに海蔵小学校百周年記念誌の刊行、施設、設備の整備、記念式典、資料展、児童作品展などを実施することになりました。なお、行事の最後には、地区民の融和の輪を拡げんがため校下大運動会を挙行し、楽しい一日を過ごすことができ、百年にわたる永い思い出の一ページともなり得ますことは感無量であります。

この企画に対する委員、とりわけ、小委員諸氏のご尽力と地区の皆様のご協力、学校の先生の不断のご努力に対し衷心より感謝の意を捧げるとともに、今後、母校の益々の発展を祈念致しましてご挨拶といたします。

たゆみなき発展

学校長 伊 藤 忠 男

本校が、明治8年7月1日、5か村組合立海蔵学校として、末永に、その産声をあげてから、星霜既に百周年を迎えることになりました。

わずか100名余の児童数、教員数2名という小規模ながらも、この近辺の方々がおそらく向学心に燃えて馳せ参じたことでしょう。現在 980名の児童数と教職員数34名の大規模校として市内有数校になり得たことを考えますと今昔の感に堪えません。

しかし、その間、先輩諸賢のご努力により幾度かの校舎の増改築や校地拡張がなされました。また、昭和20年には空襲による校舎全焼という大惨事に見舞われました。けれども、まるで不死鳥の如く遅く立ち上がり、今日の姿にまで発展させていただいたのは、地元の方々の燃ゆる愛校心と、教育に対する深いご理解の賜物であります。

現在の私たちは幾多の変遷を極めたこの校史に秘められた教訓を生かし、子どもたちがいつまでも美しい心を持ち、よく考え、どこまでもやりぬく実践力と造形美術に関心を持ち温かい心情を持つ情操陶冶に専念したいものです。また、先輩諸賢の築かれた校風とその愛校心を育てていきたいものです。

この校史がやがて21世紀の輝かしい夢を抱いて成長して行く現在の子どもたちに無言の指針となり、これから先の示唆ともなれば望外の喜びと思います。

末辞ながら、この校史編集に際し幾多の貴重な資料をご提供くださいました先輩、古老の方々、資料収集にご協力くださいました方々に心から厚く御礼を申し上げます。これから後も温かく本校を見守っていただき、共にそのたゆみなき発展に努力したいものと考えます。

海蔵小学校

創立百周年によせて

四日市市長 岩野見齊

海蔵小学校創立百年祭をむかえられるにあたり、心からお祝い申し上げます。

海蔵小学校は明治8年7月1日、当時の三重郡東阿倉川村をはじめ浜一色村など周辺5か村で組合立学校として末永村正福寺にて産ぶ声をあげ、本年7月1日をもって、丁度満百年をむかえ児童数980名、卒業者数約7,000名にのぼる学校として大きく発展されたのであります。この間、日本の教育史を物語るように学制の改革にともなう再三にわたる校名の変更がなされました。また、昭和20年6月には戦災による校舎焼失、さらに昭和34年9月の伊勢湾台風による講堂の全壊、地域の発展などによる児童数の激増など幾多の転変がありました。地域住民をはじめ関係者の方々の非常なご努力によって、校舎の建設、校地の拡張など施設整備が進められ今日にいたりしました。

また、本市の伝統的な産業である万古工業地帯に位置し、その永い歴史の重みと、その特質を受けついで輝かしい校風をうちたてられ、多くの有能な人材を輩出し、本市の発展と民生の安定に大きく貢献されたのであります。ここに、海蔵小学校の発展に尽された歴代の教職員各位をはじめPTA、同窓会の皆様方のご苦勞に対して深く敬意と謝意を表わします。

創立百周年の輝かしい歴史と伝統にたち、地域住民の方々の愛校心に支えられて、今後とも海蔵小学校が一層の発展をされ社会のために寄与されますことを切望してお祝いのことばいたします。

生々発展

四日市市教育長 市川一郎

海蔵小学校が正福寺境内に誕生してから百年を閲し、その記念事業が推進されるなかで校史が編集されます。校地の移転や校名の変更、教育の内容方法の推移など、学校百年の歴史はこの地区百年の歴史であり、日本国の歴史の縮図でもあります。古きをたずねて新しきを知る、というのは人間の堅実な聡明な生き方であります。本誌がこの学校の生々発展して行く資料となることと信じます。

明治5年、学制の頒布の年に四日市学校が発足し、小古曾、赤水の二校について、明治8年になって本校が創められています。経済的に著しい発展をとげた今日でも、一つの学校を作ることは、物心両面なかなか大変な事業であります。百年前に一学校を創設することは真に容易でなかったことが想像されます。維持管理のための経費もすべて民費によったもので、文字どおり人民共立の学校であり、こうした苦勞、その後も永く続いたことと思われまます。

戦後、わが国の学校教育の制度は飛躍的に拡大し、義務教育の段階での就学猶予免除は殆んどなくなり、高等学校教育さえも義務教育化されましたが、教育の内容方法には、正さなければならぬいくつかの歪をはらんで来ています。

人間形成ということは、生まれ落ちてからの両親の家庭における正しい教育配慮から初まるのであります。義務教育の第一段階としての小学校の持つ意義は極めて大きいのであります。学校と家庭、教師と父母がよく連絡協調して教育の成果を確実にしたいのであります。地域の教育の中心として愛され、信頼されて来た本校が、百周年という記念すべき時を一くぎりとしてまた新しい道を切り開いて健やかな発展を続けられることを祈ってやみません。